

「育児専念」か「仕事両立」か 望む「在り方」分かれる

2009.11.11
第1199号

県の子育て世代 アンケート

「子育て王国」を推進する鳥取県は、子育て世代を対象にアンケート調査を実施した。その結果、女性が望む育児の在り方について「育児への専念」と「仕事との両立」がほぼ真つ二つに分かれた。一方、就労している女性は72%に上り、理想の育児に経済的負担が重くのしかかっている現実も浮かび上がった。

県内の1800人を対象に調査し、1275人（うち女性1192人）が回答した。

「出産を機に退職」を望む女性は505人だったのに対し、結婚や出産と関係

理想の育児に経済的負担重く

なく「仕事を続ける」女性は481人。一方で、パートやアルバイトも含め就労女性は863人あり、理想と現実のギャップも。

また、理想的な子どもの数は「3人」が57%と最多だったが、将来の予定数が3人とする人は35%。82%が子育ての経済的負担が大きいと感じており、負担の上位には教育費などが上がった。

県はアンケート結果も踏まえ、本年度中に5年計画の「鳥取子育て王国プラン（仮称）」を策定する。子育て支援総室は「仕事と子育ての両立を支援する一方で、育児に専念する親を支える取り組みも重要。地域社会全体で子育てを応援できる仕組みをつくりたい」と話している。

就労女性 は72%